



サービス付高齢者向け住宅について、わかりやすく解説する小濱道博氏

レポート

Seminar
Report

●サ高住開設・運営セミナー

改正高齢者住まい法をテーマに多くの医療関係者が参加

CIMA S愛知中央支部株式会社マックコンサルタントは、5月19日に名古屋市内で「介護事業とサービス付き高齢者住宅運営・開設セミナー」高齢者住宅による新しい経営戦略」を開催した。

はじめに「サービス付き高齢者住宅の基本知識」と題し、同研究会顧問の小濱道博氏が登壇。人口動態などを踏まえ、なぜサ高住が注目を集めているのかを説明した。その後、高齢者専用賃貸住宅の反省点として「要介護度が高くなると追い出される」「介護サービスが不十分」「医療機関が開設した場合、住宅ではなく施設になりがち」などを指摘した。

こうした点に鑑み、同氏はサ高住への考え方として、①利回り、入居率、回転率といった数字主体の建設会社の投資営業は過去のものである、②地域密着型であることを理解し、長いスパンで事業計画を立てないと、地域に淘汰される、③「許可可

の取消し」もある制度から、コンプライアンスのアフターフォローが重要——など3つのポイントを説明。医療法人の参入については、①地域包括ケアの理念(医療・介護・住まい)に合致した総合サービスが提供可能

②家賃収入、診療報酬、介護報酬が得られる、訪問診療と患者の安定確保に貢献。施設や病院の受け皿としても有効——などをメリットに掲げた。最後に、成功の最大のポイントとして、介護、特に許可取消し対策に精通した専門家をブレインにもち、さらに最大のリスクマネジメントはコンプライアンス重視、事業コンセプトを明確にすることを挙げた。

続いて、積水ハウス株式会社東京本社医療・介護推進事業部課長の山村由美子氏が登壇。サ高住の実例紹介などを通じて、成功のポイントを語った。定員50人は満席。介護への関心の高さと新制度について真剣に聞き入る姿が印象的だった。

●歯科医院新人スタッフ研修

素直さ、プラス発想、勉強好きなどと働くうえでの「心構え」を説く

経営戦略研究所株式会社の歯科医院地域一番実践会は5月24日、「歯科医院新人スタッフ研修」を開催した。東京会場では、医療コンサルタントの根本和馬氏が講師を担当。今年4月に入職したばかりの歯科衛生士、歯科助手、受付スタッフのほか、スタッフへの仕事観の伝え方を学びたい院長、院長夫人など約120人が会場に集まった。

セミナーはまず、歯科診療所を取り巻く概況の説明から開始。全国に約7万件あり競争が激化している状況をデータで紹介し、根本氏は、スタッフ一人ひとりが高いプロ意識をもつべきだと強調した。患者から選ばれる歯科診療所になるためには、地域住民にとってのトップ・オブ・マインドであることが重要であり、根本氏はそれを、地域一番」と表現する。地域一番となるために歯科診療所が目指すべき方向性としては、患者の健康を守るために予防に注力する、高付加価値を提供できる自費診



講師を務めた根本和馬氏

療の比率を高めることなどを挙げた。

これらのレクチャーを通じて、院長の気持ちを慮ること、自分の仕事の意味を深く理解し、将来はどのようなスタッフになりたいかを思い描くことなどの重要性を根本氏は伝えた。

セミナーの後半では、「プロフェッショナルスタッフになるうー」がテーマ。入職から飛躍的な成長を遂げるためには、素直さ、プラス発想、勉強好き、情熱などが大事だとしたうえで、「自分、患者さま、医院、この3つのために仕事をしてください」と、根本氏は働くうえでの心構えを説いた。